閲読月日： 平成　　年　　月　　日
閲読者：　篠 原 文陽児　　印

1 標 題：
2 著 者：　　　　　　　　　　　　　　　　3 指導教員：
4 内容の概要：

5 論文の種類：　理論研究、実験研究、調査研究、開発研究、実践研究、その他（　　　　　　　）
6 判 定：　A　B　C　D　E　F(不可)　：　合　　　否
7 判定の基準：

			Excellent	Good	Poor		主たる該当ページ、根拠等
(1)論文の内容	1	要約[1)]	A	B	C	D	(　　)
	2	先行研究の分析[2)]	A	B	C	D	(　　)
	3	具体的根拠の指摘[3)]	A	B	C	D	(　　)
	4	論理的である[4)]	A	B	C	D	(　　)
	5	正確である[5)]	A	B	C	D	(　　)
	6	標題と内容の整合性	A	B	C	D	(　　)
	7	データの解釈[6)]	A	B	C	D	(　　)
	8	事実と意見の使い分け[7)]	A	B	C	D	(　　)
	9	感想文的でない	A	B	C	D	(　　)
	10	残された課題の明記	A	B	C	D	(　　)
	11	教育現場への示唆[8)]	A	B	C	D	(　　)
	12	新しい知見	A	B	C	D	(　　)
	13	独創的である[9)]	A	B	C	D	(　　)
(2)論文の構成	1	起承転結[10)]	A	B	C	D	(　　)
	2	論理の一貫性	A	B	C	D	(　　)
	3	章・節・項目・小見出し	A	B	C	D	(　　)
	4	図表[11)]	A	B	C	D	(　　)
	5	脚注・引用文献・参考文献[12)]	A	B	C	D	(　　)
	6	謝辞	A	B	C	D	(　　)
(3)文の構造Ｉ	1	文体の統一	A	B	C	D	(　　)
	2	文の接続[13)]	A	B	C	D	(　　)
	3	事実と意見の使い分け	A	B	C	D	(　　)
(4)文の構造Ⅲ	1	文の長さ(18 ～17文節)	A	B	C	D	(　　)
	2	表記[14)]	A	B	C	D	(　　)
	3	用語と表現[15)]	A	B	C	D	(　　)

8 閲読結果感想（著者への質問、提案、等）：

脚注：

1) 要約の有無、内容の適切さ、長さ（300～400字程度:国際的には、英文200語=200Wordsが原則）。

キーワードは適切か。キーワードで、論文の内容と主張が、容易に想像できるか（和文、英文問わず5～7語。原則は単語。過度な、極端な複合語は避ける。）

2)
a）引用文献と参考文献あるいは資料には、当該研究の学会誌またはこれに準ずるあるいは関連する論文誌があるか。署名の無い新聞記事を含め過度にジャーナリスティックな引用文献等は、記載されていないか。新聞等記事であれば、引用している原典にあたっているか。
b）国内、海外での筆者による国際的な場での研究発表や論文は、記載されているか。
c）主題とその周辺に位置する、それぞれの基本文献は、あるか。
d）基本文献は、いずれも原典か。翻訳書については、原典の訳か。自身の訳であれば、正確か。
e）OECDとユネスコなどグローバル社会に対応した基本的なウェブサイト、及び同じく、関連するかつ関連させた基礎的なホームページは、それぞれ網羅されているか。
f）文献等で示されている記述内容を、多面的、多角的かつ多重的な分析、総合、評価の3段階を経て、妥当な問題点あるいは課題が、筆者の言葉で明確に指摘されているか。その質は、深さは、それぞれ適切か。「仮説」は明記されているか、あるいは、意識化されているか。
g）指摘された問題点等は、現代と近未来あるいは未来の発展に有意味か。本質的か。
h）異業種、異分野、異領域等の知見の統合が認められるか。
i）研究目的は明記されているか。明快か、具体的か。Global issueか。

3)
a）引用文献あるいは参考文献等に基づいているか。断定に対する理由づけの資料・根拠は、合理的か、適切か。
b）理論及び文献や資料との整合性はあるか、明確か。
c）引用部分については、分析、評価、総合に基づく、筆者の意見が明記されているか。

4) 論文全体にまとまりがあるか。冗長でないか。

5) 特に、表にあっては、統計的検定を配慮した記述か。

6) 新たな統合や分類あるいはカテゴリー等の観点に基づく特色ある独特なネーミング(キャッチコピー)はあるか。なお、データとは、理論研究にあっては、引用文献等の複数の主張。

7) 独特の特色ある思想の萌芽が認められるか。

8) 教育改革に寄与するか。Innovativeか。Challengeableか。

9) 異業種、異分野、異領域等の特異な組み合わせと積み上げ及び統合や政策研究(Politically correct)への寄与。

10) 起承転結、または、序論・本論・結び、あるいは、重点先行主義で構成されているか。

11)
a）書き方、位置は正確か。カラー表示はないか。表では、統計的検定が行われているか。
b）教授用テキストなどの調査用教材のまとめかた、整理のしかたは適切か。

12) 脚注、引用文献、参考文献の区別、引用の長さ、わかりやすさ、書き方。文献の書式の統一（例：著者、訳者、標題、出版社、年、頁：ホームページURLにあっては、アドレス、閲覧年月日）。

13)
a）段落の続き方、段落の長さ(200～300 字）。
b）段落、長文では結論が先に予告されているか、または、先にあるか。

14) 正しい字体、誤字・脱字・冗字、句読点、同音漢字の書き分け、同訓漢字の書き分け、
漢字書きかひらがなか、語句・語法の正確さ、英単語等の分かち書き、主語・述語の有無とその距離は適切か。
引用部分は明確な表記がされているか(「引用」と「参考」の明確な区別)。

15)
a）ひとつの文の中に２つ以上の違った事項がないか。
b）多義にとれる中止法はないか、受け身文は多用されていないか。
c）長文はないか。
d）修飾語のかかりは正確か、修飾語は長すぎないか。過度な感情表現はないか。控えめな表現か。
e）字句（接続詞、副詞、修飾語、指示語、述語・シンボル・固有名詞、
単位・単位記号・量記号、年号、数式）は正確か。
f）専門用語の濫用はないか、分かって使っているか、俗語が無いこと。

○　参考：修士論文等の意義

1)一般的意義

学術的な先行研究、先行事例等を精査し、統合して得られた根拠ある科学的な知見等を基礎に、研究仮説を設定し、理論研究、調査研究等を計画的に実施し、論理的、分析的、かつ、総合的に、自分の創造した知見をまとめて、伝達する。

2)教育的意義

研究計画及び研究方法（仮説の設定と検証、特に実験・調査研究においては統計的検定を含む）に関する基礎・基本の学習。